

「首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業」まとめ【概略版】

教育委員会名	西会津町教育委員会
研究課題	首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業
研究のねらい	<p>以前は、三世帯同居がごく一般的であったが、最近子どもが都市部へ流出し高齢者だけの世帯も多く、日常的に世代を超えた交流が少なくなっているため、高齢者を担当する部署は、高齢者が一人きりにならないよう各種施策を実施している。</p> <p>一方、児童・生徒の高齢者とのつながりは、高齢者と同居している一部児童・生徒に限られていることから、高齢者と児童・生徒のつながりを深める事業を実施する。</p>
研究の概要	<p>・首長部局の高齢者担当課、計画策定課と教育委員会、学校で「教育委員会・町長部局連携会議」を組織し、高齢者と児童・生徒のつながりを深める事業を検討している。</p> <div style="text-align: center;"> <pre> graph TD     A[教育委員会・町長部局連携会議] --&gt; B[首長部局]     A --&gt; C[教育委員会]     B --&gt; D[企画情報課(計画策定課)]     B --&gt; E[健康福祉課(高齢者担当課)]     C --&gt; F[学校教育課]     C --&gt; G[生涯学習課]     C --&gt; H[西会津小学校]     C --&gt; I[西会津中学校]                     </pre> </div> <p>・「聞き書き」という方法を使い、地域の高齢者の生き様を子どもが聞き取り、言葉にすることにより、高齢者は子どもとの交流に生きがいを感じ、子どもは高齢者の歴史を知り、地域の歴史を知ることができるとともに、聞く、書くという力が向上する。</p>
研究の成果	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> </div>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「聞き書き」を実施することにより、子どもたちは、今まで自分の生きてきた世界とは違う高齢者の歴史を引き出し、町の歴史を学習するとともに、子どもたちの聞く力、書く力が向上する。</li> <li>・高齢者は、自分の生きてきた人生のすべてを子どもたちが肯定してくれることによって、生きる力が高まる。</li> <li>・高齢者の持つ生きる知恵を子どもたちが聞き出すことにより、地域の活性化につながっていく。</li> </ul>
本件 問い合わせ先	西会津町教育委員会生涯学習課 西会津中学校図書館 TEL: <a href="tel:0241481153">0 2 4 1 - 4 8 - 1 1 5 3</a> FAX: 0 2 4 1 - 4 5 - 2 1 4 8 E-mail: <a href="mailto:tosyo@town.nishiaizu.fukushima.jp">tosyo@town.nishiaizu.fukushima.jp</a>

「首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業」まとめ【概略版】

教育委員会名	新潟県教育委員会
研究課題	<p>首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業</p> <p>佐渡市との協働による小・中・高等学校が連携したふるさとへの愛着や誇りを育むグローバル人材育成プログラムの開発へ向けた実践研究</p>
研究のねらい	<p>ふるさとへの愛着を育むとともに、国際的な視野をもち将来佐渡を中心に活躍し、地域の発展に貢献できる人材を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 佐渡市では佐渡金銀山世界遺産登録推進の取組を進める一方で、少子高齢化が進み若者が減少している。</li> <li>○ こうした中、郷土の将来を担う次世代の人材育成が大きな課題であるため、島内5つの高校・中等教育学校が佐渡市や小・中学校と連携し、佐渡の魅力を国内外へ発信する。</li> <li>○ 島外からの居住及び島内の学校への入学の促進につながるような取組に積極的に参加する。</li> <li>○ 佐渡の自然を生かした持続可能な社会（サステナビリティ）の視点をもつため、東京大学や新潟大学及び佐渡市との連携をとおした探究活動により、佐渡を担う人材育成を図る。</li> </ul>
研究の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 佐渡市総合政策課や佐渡市教育委員会との協働 佐渡市の考える「人材育成」及び「人材誘致」において各学校と協働し、佐渡の活性化のための人材の育成確保につなげる。佐渡国際トライアスロンや観光ボランティアなど、高校生が主体的に佐渡の魅力を伝える活動を行い、世界に佐渡の魅力を発信する。</li> <li>2 佐渡地区高校生海外研修（ヘイワード研修） ～佐渡の魅力を米国へ発信～ 米国カリフォルニア州ヘイワード市の高校への短期留学について、佐渡市立学校等人材育成事業補助金制度を活用してグローバル人材育成の取組を推進し、地域の魅力を海外の高校生に伝える活動をとおして、世界へ佐渡の魅力を発信する。</li> <li>3 佐渡地区英語スピーチコンテスト ～ふるさと佐渡の魅力を英語で発信～ 佐渡市教育委員会と共催で、小学生は日本語、中学生・高校生は英語のスピーチコンテストを実施し、日頃の英語学習や郷土学習の成果を発表することにより、小中高の発達段階に応じたキャリア教育の推進を図る。</li> <li>4 佐渡地区高校生英語ガイドと観光ボランティアの養成 ～佐渡を訪れる外国人を英語でおもてなし～ 高校生英語ガイドや観光ボランティアを体験することにより、佐渡の伝統や文化等を理解し、外国人旅行者と積極的に交流できる人材を育成する。</li> </ol>



平成 27 年 3 月 米国短期留学



平成 27 年 12 月 スピーチコンテスト



平成 27 年 7 月 観光ボランティア活動

	<p>5 佐渡地区高校生デイリーイングリッシュキャンプ ～留学生とのコミュニケーション活動をととして佐渡の魅力を考える～ 佐渡を訪れる留学生に伝統芸能や地域の文化を伝えるとともに、佐渡の将来について考え、国際的な視野で将来の佐渡の活性化について考える機会とする。</p> <p>6 佐渡地区グローバル人材育成プログラムの開発 佐渡の自然を生かした持続可能な社会(サステナビリティ)の視点をもつため、東京大学や新潟大学及び佐渡市との連携をととした探究活動等に取り組む。こうした探究活動をととして、サステナビリティの視点をもつグローバル・リーダーの育成を目指し、将来の佐渡に貢献できる人材を育成する。</p>														
研究の成果	<p>I 佐渡市総合政策課や佐渡市教育委員会との協働 佐渡国際トライアスロンの開会式の逐次英訳や留学生を佐渡に招いて行う国際交流活動など、佐渡市の行う国際交流に関する取組には必ず高校生が主となり参加する体制が整ってきている。</p> <p>II 佐渡地区高校生海外研修（ハイワード研修） 米国の高校で授業を受けるとともに、生徒自身が日本語を学ぶ米国高校生の教師となって、日本や佐渡の伝統や文化を紹介し魅力を伝えるなど、文化交流を図る貴重な体験の場となっている。また、カリフォルニア州立大学バークレー校での語学研修や Apple や Google 等の有名企業の視察をととして、将来グローバルに活躍する人材の育成を目指している。</p> <p>III 佐渡地区英語スピーチコンテスト 佐渡市教育委員会や小中高等学校の連携により、小中学校のふるさと学習や小中高校生の将来の自分を考える人に伝える機会をととして、地域の魅力を世界へ発信するプレゼンテーション能力等を育むことができた。</p> <div data-bbox="373 1245 1430 1572"> <p>【アンケート結果】回答者数：児童・生徒 30 人、保護者・教員等 39 人</p> <p>○「スピーチコンテストをととして身についた力や態度は」</p> <table border="0"> <tr><td>1 考えや意見を伝える力が身についた</td><td>30.8%</td></tr> <tr><td>2 英語力が身についた</td><td>23.1%</td></tr> <tr><td>3 自分の将来について考えるようになった</td><td>17.9%</td></tr> </table> <p>○「この活動で子どもたちはどんな力や態度が身についたと思うか」</p> <table border="0"> <tr><td>1 考えや意見を伝える力が身についた</td><td>35.6%</td></tr> <tr><td>2 自分の将来について考えるようになった</td><td>23.0%</td></tr> <tr><td>3 自分の英語力が身についた</td><td>14.9%</td></tr> <tr><td>4 佐渡への愛着が深まった</td><td>13.8%</td></tr> </table> </div> <p>IV 佐渡地区グローバル人材育成プログラムの開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 東京大学柏キャンパスでの実習や新潟大学での講義と実習等の探究活動をととして、佐渡の自然を生かした持続可能な社会(サステナビリティ)実現への視点をもつことができた。</li> <li>○ 今後、大学や佐渡市との連携を深め、佐渡高校に設置された太陽光発電システムのデータ収集とその解析をすすめることで、佐渡に最適なエネルギーの活用などについての課題などを高校生の視点で考えていく。</li> <li>○ 佐渡の小・中・高等学校が一体となった取組を行っていることを伝えるとともに、佐渡の魅力を島外へ発信し、佐渡金銀山世界遺産登録推進を進めている佐渡市に貢献していく。</li> </ul>	1 考えや意見を伝える力が身についた	30.8%	2 英語力が身についた	23.1%	3 自分の将来について考えるようになった	17.9%	1 考えや意見を伝える力が身についた	35.6%	2 自分の将来について考えるようになった	23.0%	3 自分の英語力が身についた	14.9%	4 佐渡への愛着が深まった	13.8%
1 考えや意見を伝える力が身についた	30.8%														
2 英語力が身についた	23.1%														
3 自分の将来について考えるようになった	17.9%														
1 考えや意見を伝える力が身についた	35.6%														
2 自分の将来について考えるようになった	23.0%														
3 自分の英語力が身についた	14.9%														
4 佐渡への愛着が深まった	13.8%														
本件 問い合わせ先	<p>新潟県教育庁高等学校教育課 企画振興係 TEL：025-280-5614 FAX：025-285-7998 E-mail：ngt500050@pref.niigata.lg.jp</p>														



東京大学柏キャンパス



「首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業」まとめ【概略版】

教育委員会名	愛知県田原市教育委員会
研究課題	<p>首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業</p> <p>○地域社会の一翼を担う新たな学校づくり</p> <p>～学校と地域が協働するまちづくりプロジェクトを通して～</p>
研究のねらい	<p>1 生徒たちが、このまちをどのようにしていきたいのかを考え行動できるようにしていく仕組みをつくるための研究。地域の大人が、まちづくりについて生徒と一緒に考え、中学生の視点も取り入れたまちづくりの取組みができるようにしていくことをねらいとする。</p> <p>2 学校と地域、また中学校と高等学校が連携して「人材育成」「地域活性化」「学校と地域が協働するまちづくり体制の構築」を3本柱とした地域の魅力作りに取り組むことによるキャリア教育の充実と地域活動の充実を図る。</p> <p>(1) 人材育成</p> <p>中学生の自主的な活動を地域とつなげ、地域のサポートをうけて活動を実践する体制を構築し、未来を担う中学生が本気で地域のことを考え、課題を解決していくための行動をおこす意欲を向上させることを目指す。</p> <p>(2) 地域活性化</p> <p>①実施中学校の校区内にある県立高等学校の生徒にも協力を呼びかけ、中学校生徒と高等学校生徒と一緒に地域の魅力づくりに取り組むことができるような体制を構築する。</p> <p>②地域の課題解決に取り組む若者を増やして活動を広げ、中高生の情報発信能力を活かした取り組みを検討。</p> <p>(3) 学校と地域が協働するまちづくり体制の構築</p> <p>生徒のキャリア教育と生徒が参加する地域活動を充実させることにより、地域が活性化されていく好循環環境をつくり、生徒が生き生きと活動する魅力的な学校モデルを構築する。</p>
研究の概要	<p>1 事業全体のイメージ</p>

## 2 具体的な事業内容

- (1) 福江中学生を対象にしたプレゼンテーション研修会を開催。
- (2) 中学校生徒によるまちづくり提案書を作成し、発表会を開催。
- (3) 地域が実施しているまちづくり活動に中学生が参画する場を作り、学校と地域が協働で活動を行っていくための仕組みづくりを検討するための事業を実施。



- ①地域のイベントなどへの参画
- ◎イベント準備に協力した。
- ◎地域の方や、地元高校生と一緒に活動した。
- ②事業PR及び啓発
- ◎事業周知用チラシ作製した。
- ◎地域のイベントにあわせ、生徒の意見などを取り入れた地域の見どころ・美味しんぼうマップを作製した。

- (4) 学校と地域が協働するまちづくりセミナーを開催し学校との連携による地域の魅力発見と活用について検討した。
- (5) 先進地視察
  - ①中高連携教育を実践している学校を視察した。
  - ②観光や地域活性化で活躍する人材を育成している学校を視察した。
- (6) 協議会、実行委員会を開催し、事業について協議・検討を行った。

## 研究の成果

- 1 プレゼンテーション研修では、先入観による読み間違いなどする特性が人間にはあることを体感した。自分の考えをまとめることや分りやすく簡潔に表現することなどについて生徒と教員が学ぶことができた。
- 2 学校と地域が協働するまちづくりセミナー及びワーキングがきっかけとなり、様々な組織や団体が一緒にまちづくりに対して話し合う場ができた。地域の活性化について学校・民間・地域・行政がそれぞれの役割を明確にしながら取り組んでいこうという意識を高めることができた。生徒がまちづくりに関わっていくことは次世代を担う人材育成にもつながるという認識も強く持つことができた。
- 3 地域活動への参加と参画により生徒自信が、地域のことを考える機会を増やすことができた。また、生徒が活動に参加したことにより、いままで関心のなかった層に活動のPRができた、活動が広がったりしていくことを実感することができた。
- 4 先進地視察により、6年間を通した教育は、子供たちの力を伸ばして就職や進学につなげるためには効果が高いことを知ることができた。

本件

問い合わせ先

田原市教育委員会 学校教育課

TEL: 0531-23-3679 FAX: 0531-22-3811

E-mail: gkyou@city.tahara.aichi.jp

「首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業」まとめ【概略版】

教育委員会名	総社市教育委員会
研究課題	首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業 昭和中学校区への定住促進のための地域との協働による幼・小・中一貫教育プログラムの開発
研究のねらい	人口減少の著しい昭和中学校区の幼稚園2園，小学校2校，中学校1校が一貫した特色ある英語教育を進めることにより，有意義な学校生活を送ることができるようにする。また，一貫した教育課程の中にピア・サポートなどを位置付けて子どもの学校適応感や自己有用感を高めたり，家庭や地域と連携した基本的な生活習慣や家庭学習習慣を確立したりすることにより，学校の魅力を発信し，定住促進につなげる。
研究の概要	<p>学校園が連携して行っている取組を地域連携協議会のメンバーに伝え，参観してもらったり，地域連携協議会で報告したり，広報誌を作成し配付したりした。また，移住希望があった9組の家庭に，総合政策部政策調整課の職員等が幼・小・中学校（園）が連携して取り組んで教育活動を行っていることを説明した。</p> <p>中学校区内の小・中学生の望ましい生活習慣や学習習慣を確立するために，「家庭学習の手引き」を作成したり，幼稚園が連携して「読み聞かせの手引き」を作成したりした。また，幼・小・中学校（園）が一貫したピア・サポートを行うことができる教材データベースを作成した。この中には小学校1年生のスタートカリキュラムも含まれている。そして，幼・小・中学校（園）の接続がスムーズに行えるように中学生が小学生や幼稚園児に，小学生が幼稚園児にピア・サポートの実践を行った。</p> <p>さらに，品格教育の推進と一貫した教育のアピールのため，中学校区内全域に幼・小・中学校（園）が連携して進めている品格教育ポスターを掲示したり，各家庭に配付したりした。</p> <p>小・中学校が一貫した教育を進めている学校やコミュニティ・スクールの指定を受け，地域とともに教育を進めている学校へ教職員や地域住民を派遣し，実践事例を学んだ。また，小・中学校の一貫した教育についてまとめた冊子を作成し，教職員等の共通理解を図った。</p> <p>学校園の取組に対する地域住民の理解を促進するために，地域連携協議会において，コミュニティ・スクールに関する研究を進めた。</p>



品格教育ポスター



<p>研究の成果</p>	<p>地域連携協議会や広報誌, 一貫教育PR のぼりなどを通して, 五校園が英語教育やピア・サポートなどを一体となっていて行っているということ, 地域の住民に周知できた。</p> <p>また, 品格教育について統一したポスターを作製し, 地域や家庭に掲示したことにより, 保護者や地域住民への一貫した教育の啓発につながった。首長部局の移住促進PRに五校園の一貫した取組が紹介され, 県内外から多くの問い合わせが来ている。</p> <p>幼・小・中五校園のアンケートでは, 85%の教職員が一貫教育の成果が十分であるかという問いに肯定的な回答を示した。また, 98%の教職員がこの一貫教育を続けたいと回答した。また, 90%の保護者は一貫教育の取組が保護者や地域住民と連携していると回答し, 94%の保護者が一貫教育を続けてほしいと回答した。そして, 80%の中学生は小学生や幼稚園児との交流が楽しいと回答が得られるなど, 地域住民と連携して一貫教育を進めていくことの期待や理解, 成果が現れている。また, 保護者の中には学校園の活動に自らも積極的に関わろうと行動する人も現れ, 新たなパワーとなっている。</p> <p>先進地の視察を通して, 学校と地域が協働して先進的に取り組んでいる地域の活動を知り, 教職員や地域住民の意識は高揚している。</p>
<p>本件 問い合わせ先</p>	<p>岡山県総社市教育委員会 学校教育課 TEL:0866-92-8358 FAX:0866-92-8397 E-mail: ed-gakkyo@city. soja. okayama. jp</p>



一貫教育啓発のぼり

※MS ゴシック、11Pで作成してください。

本概要版は研究成果物（研究報告書）の概略版として、HPに掲載する予定です。

A4 2枚以内で図や表、写真などを入れわかりやすくご記入ください。